



公益財団法人 脳血管研究所
美原記念病院

Mihara Memorial Hospital



- お電話いただければ最寄りの駅より送迎いたします。
- 交通機関
- JR両毛線・東武伊勢崎線……………伊勢崎駅よりタクシーで5分
 - JR上越新幹線……………本庄早稲田駅よりタクシーで35分
 - JR高崎線……………本庄駅よりタクシーで30分
(北口 伊勢崎駅行バスで35分)
 - 本庄・児玉IC(関越自動車道)より……………車で35分
 - 駒形・伊勢崎IC(北関東自動車道)より……………車で10分



公益財団法人 脳血管研究所 美原記念病院
〒372-0006 群馬県伊勢崎市太田町366
Tel:0270-24-3355 Fax:0270-24-3359
E-mail:mihara-hosp@mihara-ibbv.jp
http://mihara-ibbv.jp

●脳血管研究所関連施設

- 介護老人保健施設 アルボース
Tel:0270-21-2700 Fax:0270-21-2704
- 訪問看護ステーション グラーチア
Tel:0270-20-7676 Fax:0270-20-7677
- ヘルパーステーション パテーラ
Tel:0270-20-7678 Fax:0270-20-7677
- 居宅介護支援事業所 みはら
Tel:0270-20-1551 Fax:0270-25-0430
- ケアプランセンター みはら
Tel:0270-21-2703 Fax:0270-25-0430



Mihara Memorial Hospital

理念

愛・和・学

愛：患者さまに対してやさしさといわりの心を持つ

和：職員は互いに助け合い協力しあう心を持つ

学：自分自身に対して向上心を忘れず学ぶ心を持つ

基本方針

【臨床研究の発展】

脳・神経疾患の急性期から慢性期・介護まで病期横断的な臨床研究を行い、もって我が国民のQOLの維持・向上に寄与する活動を行う。

【教育の充実】

研究成果に基づく知見を医療関係者に広く知らしめ、我が国全体の医療・介護の質向上に寄与する。併せて、医療・介護に携わる人材育成のための活動を行う。

【まちづくりの推進】

医療・介護の充実したまちづくりのため、地域住民から一般国民に対し疾病教育、情報提供を行い、疾病予防と医療・介護サービスの適切な利用を推進する活動を行う。



21世紀に求められる医療をめざして

当院は、脳神経疾患の急性期から在宅まで一貫した医療を提供することを目的として、昭和38年に開設されました。時代の変遷、患者さんのニーズに対応し、現在は脳卒中を主とした神経疾患の専門病院として神経内科、脳神経外科、循環器科、リハビリテーション科を中心とし、脳卒中、脳動脈瘤、脳腫瘍、頭部外傷などのほか、生活習慣病の予防管理、また、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神経難病の患者さんの診療にあたっております。

発症早期の急性期治療においては、高性能MRIやCT、血管撮影装置、ガンマナイフなど、最新の医療機器を整え、脳梗塞超急性期の血栓溶解療法、血管内手術など、あるいは、パーキンソン病の外科的治療など最先端の治療を実施しています。回復期リハビリテーション病棟では、積極的にリハビリテーションが行われ、機能の回復と在宅復帰をめざしています。神経難病の患者さんに対しては、「安心」「希望」「生き甲斐」の提供をキーワードに、患者さんと介護者の方々のQOL(Quality of life、生活の質)向上を目指したケアを実践しています。

さらに、併設の介護老人保健施設「アルポース」、訪問看護ステーション「グラーチア」、訪問介護ステーション「パテラ」と協力を密にし、退院後に至るまで、より質の高い、温かみのある医療・介護サービスの提供をめざしております。

未曾有の超高齢社会を迎えた現在、私たちに課せられた使命は極めて大きなものです。美原記念病院は、内閣府所管の公益財団法人として、地域の皆さんの健康と福祉の増進のため、そして医療の発展のため、スタッフ一丸となってさらに努力を重ねてまいります。

皆様のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院
院長 美原 盤

美原記念病院

概要



開設年月日 ● 昭和39年8月1日（脳血管研究所：昭和38年10月8日）

院長 ● 美原 盤

副院長 ● 谷崎 義生

所管 ● 内閣府

住所 ● 〒372-0006 群馬県伊勢崎市太田町366番地

Tel ● 0270-24-3355 Fax ● 0270-24-3359 E-mail ● mihara-hosp@mihara-ibbv.jp ● http://mihara-ibbv.jp

診療科目 ● 神経内科 脳神経外科 整形外科 リハビリテーション科 内科 外科 放射線科 循環器科

慶應義塾大学関連病院

獨協医科大学関連病院

日本神経学会認定教育関連施設

日本脳神経外科学会研修施設

日本脳神経血管内治療学会研修認定施設

日本医療機能評価機構認定病院

協力型臨床研修病院（伊勢崎市民病院群初期臨床研修プログラム）

建築概要

階 数：地上7階 外壁デザイン、内装色彩計画：前田米子（日展会員）

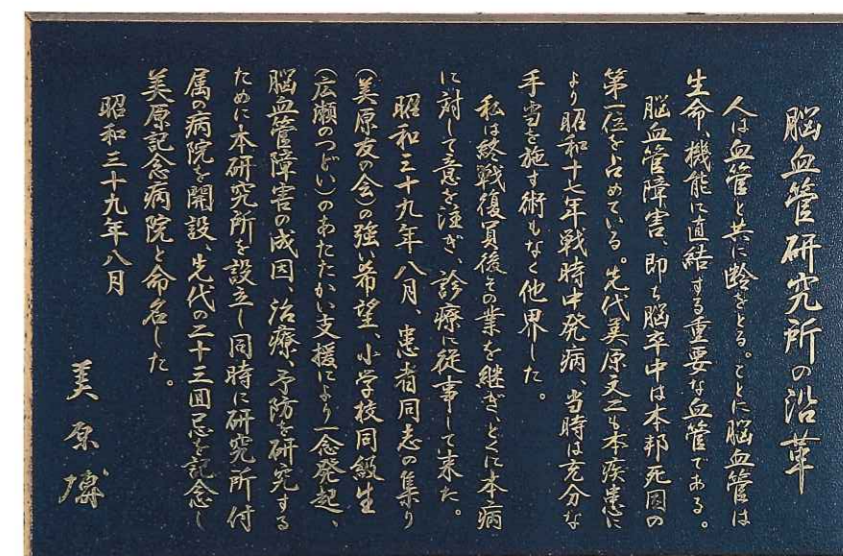
病 床 数：189床 コンストラクションマネジメント：(株)エイ・ワン・マネジメント・インク

建築面積：3,210㎡ 設計監理：久米・眞澄設計共同企業体

延床面積：9,667㎡ 施 工：清水・小川建設共同企業体



創設者 美原 博



脳血管研究所沿革レリーフ

● 外来診療のお知らせ

- * 外来受付時間は、月曜日から土曜日の午前8時30分～午前11時30分迄です。日曜日、祝日は、休診日になります。ただし、急患の方は、この限りではありません。
- * 診療時間予約制を行っています。診療終了後、予約受付口にて次回の予約を行ってください。

● 入院患者さんご面会についてのお知らせ

- * 入院患者さんへの面会時間は、午後1時～午後7時迄となっております。ただし、重症患者さんへの面会時間は、午後3時～午後7時迄になります。

脳神経疾患の急性期からリハビリ・在宅まで一貫した治療・ケアサービスを提供します



最新医療機器での早期発見・診断

320列CTは1回転の撮影(最速0.35秒)で広範囲(160mm)の撮影ができます。従来のCTに比べ検査時間が大幅に短縮され、息止めなどの患者さんの負担が大きく軽減されます。頭部、心臓の血管撮影の精度向上、加えて短時間で連続撮影することにより血流や臓器の動きの診断も可能です。3テスラMRI(高磁場MRI)では、より細い血管や微小病変などをより高精度で画像化することができます。また、撮影時間の短縮により脳梗塞の早期診断、患者さんの負担軽減が可能になりました。

体の負担を軽減する治療



●rt-PA治療

発症4.5時間以内の脳梗塞では、rt-PA(血栓溶解剤)の静脈内注射により、詰まった脳の血管を再開通させることが可能になってきています。以前は、寝たきりになることも多かった病気ですが、rt-PAの治療により過半数の方が機能を回復し、病前と同様の生活を退院後も送っています。



治療前



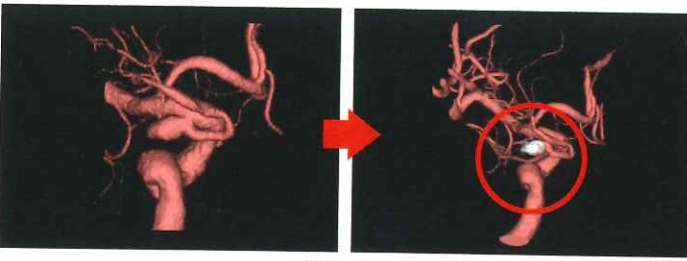
治療後

●脳血管内手術

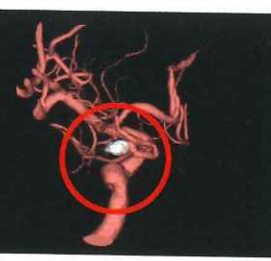
脳血管内手術は、脚の付け根などの太い血管から脳内の血管まで管を入れ、コイルをつめたり、ステントで血管を広げたりする方法です。肉体的負担の少ない治療方法で、術後の痛みも少なく、入院期間も通常1週間程度ですみます。当院では脳梗塞発症後8時間以内の患者さんに対し、詰まった血栓を取り除き、再開通させる手術も増えてきました。

コイル塞栓術

適応疾患：脳動脈瘤
脳動脈瘤内にコイルを留置し、脳動脈瘤の破裂を防ぎます。



手術前



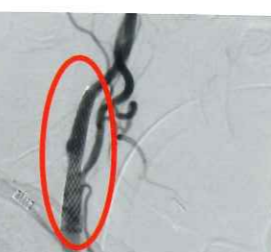
手術後

ステント術

適応疾患：内頸動脈狭窄症
ステント(金属)を血管内に留置し、細くなった血管を広げます。



手術前



手術後

ペナンプラシステム

適応疾患：脳塞栓
血管内に詰まった血栓をカテーテルを通じて吸引し除去します。



開頭せずに治す放射線治療



●ガンマナイフ

適応疾患：転移性腫瘍、脳動静脈奇形、聴神経腫瘍、三叉神経痛などガンマナイフは、複数の方向から出る放射線(ガンマ線)を病巣部だけに集中照射するため、効果が大きく副作用がとて少ない治療法です。開頭手術ではないため、短期間(原則3日間)の入院ですみます。



早期社会復帰に向けてのリハビリテーション



リハビリテーションは、急性期から回復期、回復期から生活期へ、シームレスかつスムーズに移行されることが望ましいとされています。当院では、発症後間もないうちからリハビリテーションを開始し、患者さんの機能回復を目指して365日休まず実施しています。また、患者さんの状態に合わせて、個別対応を行っています。必要に応じて自宅の環境調整なども行い、ご自宅での生活が安全・安心に行えるようサポートしています。

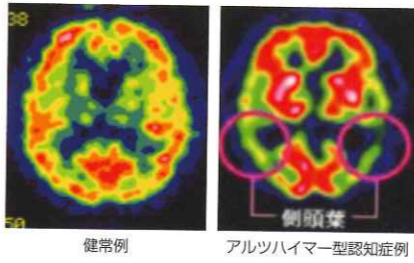


神経難病疾患への取り組み



●神経難病リハビリテーション

当院は全国初となる、神経難病患者さんを専門とした“神経難病リハビリテーション科”を平成23年4月に設立いたしました。神経難病患者さんに対するリハビリテーションでは、病期に対応したリハビリテーションを提供することを使命としています。特に、診断早期のリハビリテーションに力を入れており、外来リハビリテーション、短期リハビリテーション入院プログラムにて対応しています。



健常例

アルツハイマー型認知症例

認知症診断と予防



●認知症を診断する

核医学検査では、ラジオアイソトープと呼ばれる特殊な薬剤を用いて、さまざまな臓器の機能やがんの状態などを画像にします。検査は、事前に薬剤を注射し専用の撮影装置に数十分間、寝ているだけで終了します。代表的な検査として、脳や心臓の筋肉の血流測定、さらに全身のがん検索などがあります。特に、脳の血流検査においては、認知症の鑑別診断に非常に役立ちます。正確な鑑別診断を行うことで、より適切な治療を行うことが可能となります。



地域との繋がり



病院1階のエントランス付近にギャラリーを設置して、患者さん・施設ご利用者が創作された絵画や版画、また、地域でご活躍の方の写真、アート作品を展示して、病院利用者、スタッフと地域の方がふれ合える、開かれた空間を提供しています。
※展示期間は作品内容によって異なります。



関連施設との連携



介護老人保健施設アルボース、訪問看護ステーショングラチア、居宅介護支援事業所、美原診療所(訪問診療)、特別養護老人ホームアミーキと連携し、退院後も患者さんやご家族の不安感が少しでも解消され、住み慣れた自宅で安心して在宅生活が送れるように、患者さん個々に合った適切なサービスを提供し支援させていただきます。